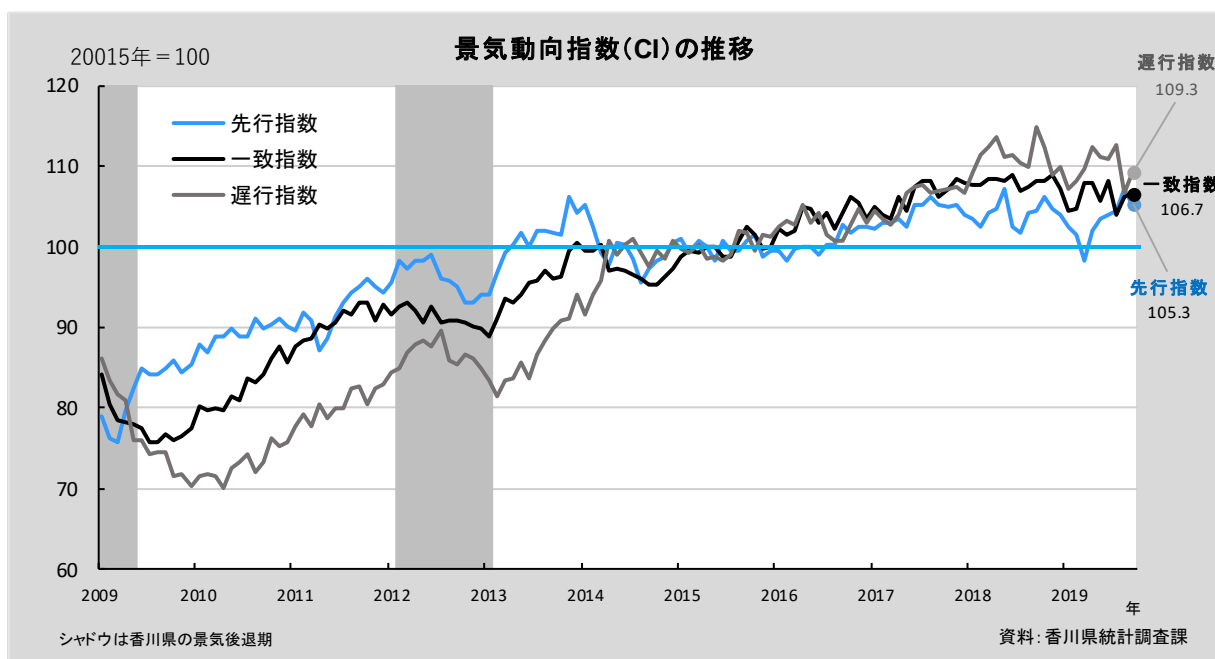


|             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| <b>概況</b>   | 景気は個人消費・住宅投資に弱めの動きもみられるものの、回復している |
| <b>個人消費</b> | 消費税増税の影響もあり、持ち直しに鈍化の兆しがみられる。      |
| <b>住宅投資</b> | 減少傾向となっている。                       |
| <b>公共投資</b> | 横ばい圏内で推移している。                     |
| <b>生産活動</b> | 横ばい圏内で推移している。                     |
| <b>雇用情勢</b> | 好調に推移している。                        |
| <b>貿易</b>   | 輸出入とも横ばい圏内の動きとなっている。              |
| <b>観光</b>   | 好調に推移している。                        |

## 景気動向指数(かがわCI) 先行指数 6カ月ぶり下降



景気の現状をみると、9月のCI一致指数は106.7（前月比+0.4ポイント）と2カ月連続で上昇。CI先行指数は105.3（同▲1.8ポイント）と、6カ月ぶりに下降。CI遅行指数は109.3（同+2.7ポイント）と、2カ月ぶりに上昇。

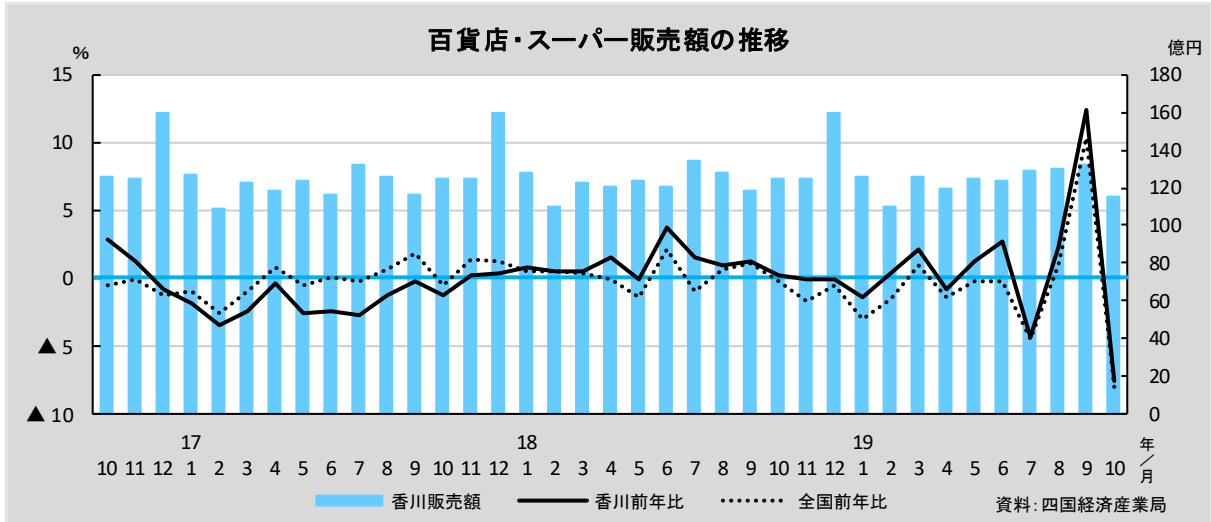
景気の先行きを示す先行系列の個別指標では、新設住宅着工戸数、生産財生産指数など4指標が下降に寄与したことにより、前月から1.8ポイント下降した。

|                | 先行系列        | 寄与度    | 一致系列              | 寄与度    | 遅行系列        | 寄与度    |
|----------------|-------------|--------|-------------------|--------|-------------|--------|
| 採用<br>景気<br>指標 | 1 新規求人数     | 0.57   | 1 雇用保険受給者実人員      | ▲ 0.67 | 1 常用雇用指数    | ▲ 0.02 |
|                | 2 乗用車新車登録台数 | 0.70   | 2 有効求人倍率          | 0.76   | 2 有効求職者数    | 0.04   |
|                | 3 鉱工業在庫率指数  | ▲ 0.64 | 3 所定外労働時間指数       | 0.19   | 3 消費者物価指数   | ▲ 0.29 |
|                | 4 生産財生産指数   | ▲ 0.93 | 4 鉱工業生産指数         | 0.76   | 4 家計消費支出    | 0.57   |
|                | 5 新設住宅着工戸数  | ▲ 1.24 | 5 鉱工業出荷指数         | ▲ 1.13 | 5 鉱工業在庫指数   | 0.65   |
|                | 6 金融機関貸出残高  | 0.11   | 6 建築着工床面積         | ▲ 0.68 | 6 法人事業税調定額  | 1.06   |
|                | 7 消費者態度指数   | ▲ 0.53 | 7 百貨店・スーパー 既存店販売額 | 1.13   | 7 第3次産業活動指数 | 0.53   |

個人消費 消費税増税の影響もあり、持ち直しに鈍化の兆しがみられる

●百貨店・スーパー販売額

3 カ月ぶり減少 ↓



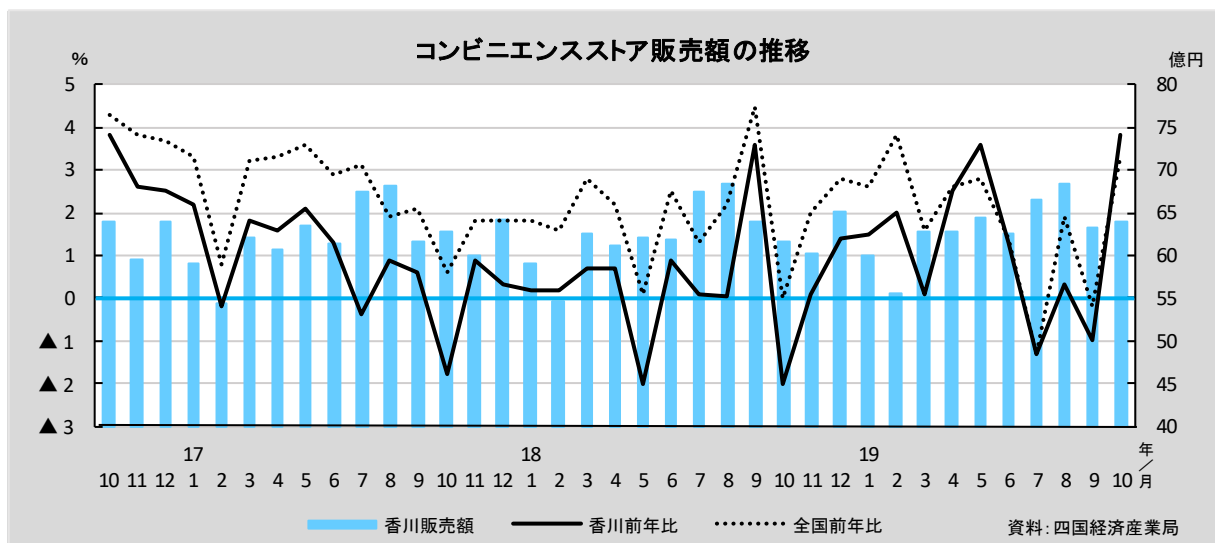
| 2019/10月 | 衣料品     | 身の回り品  | 飲食料品    | 家具    | 家庭用<br>電気機械器具 | 家庭用品   | その他の商品 | 食堂・喫茶 | 合計        |
|----------|---------|--------|---------|-------|---------------|--------|--------|-------|-----------|
| 販売額(万円)  | 118,349 | 50,172 | 832,258 | 2,201 | 5,234         | 53,458 | 91,707 | 764   | 1,154,143 |
| 前年同月比(%) | ▲19.9   | ▲21.5  | ▲1.4    | ▲19.7 | ▲11.3         | ▲13.9  | ▲24.8  | ▲23.7 | ▲7.6      |

10月の百貨店・スーパー全店（64店）の販売額は115.4億円で、前年同月比▲7.6%と、消費税増税前の駆け込み需要の反動で3カ月ぶりに減少した。

品目別にみると、全8品目が減少した。化粧品、宝飾品が振るわず「その他の商品」は同▲24.8%、「衣料品」は気温高で秋物衣料の動きが鈍く同▲19.9%。軽減税率が適用される「飲食料品」は同▲1.4%にとどまった。

●コンビニエンスストア販売額

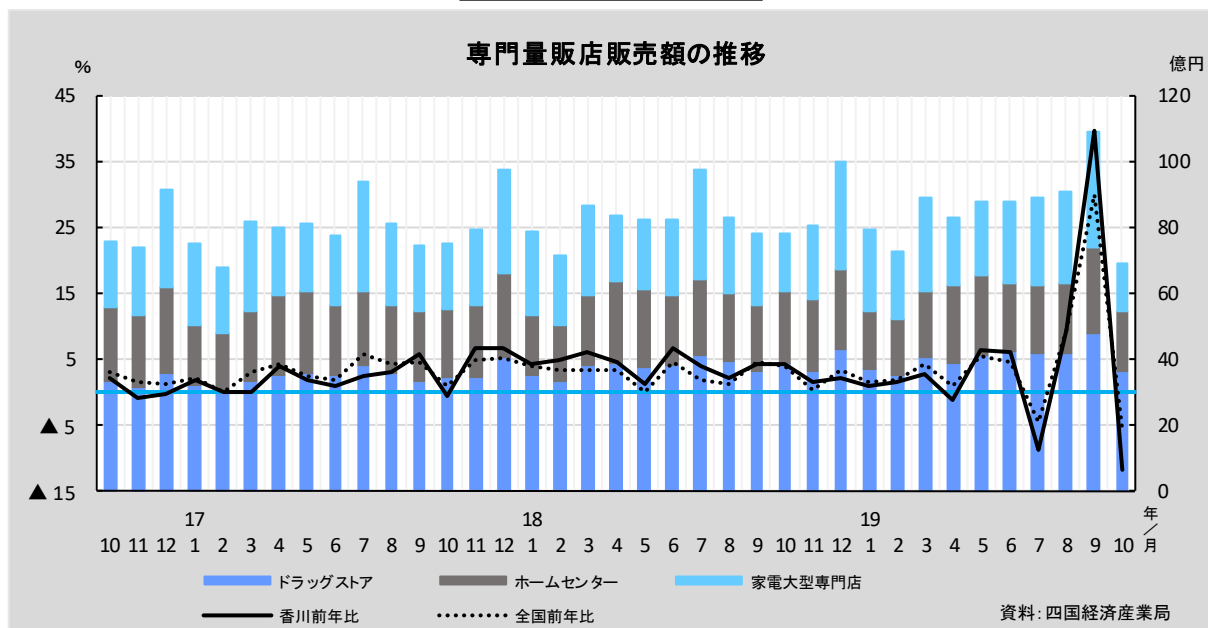
2 カ月ぶり増加 ↑



10月のコンビニエンスストア全店（408店）の販売額は63.9億円で、前年同月比▲3.8%と2カ月ぶりに増加した。

## ●専門量販店販売額

3カ月ぶり減少

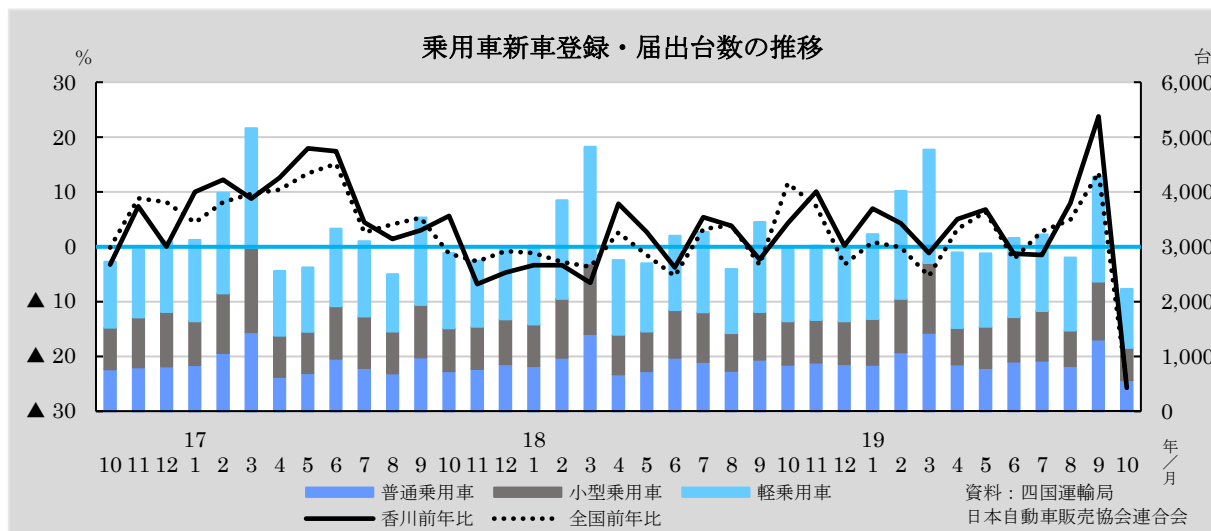


10月の専門量販店全店（199店）の販売額は69.3億円で、前年同月比▲11.8%と、3カ月ぶりに減少した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（28店）の販売額は14.8億円。駆け込み需要があったエアコンや冷蔵庫、パソコンなどが不振で、前年同月比▲17.8%となった。**ドラッグストア**（129店）の販売額は36.3億円で同▲6.2%、**ホームセンター**（42店）の販売額は18.1億円で同▲16.6%となり、共に増税前にまとめ買いが多かった日用品などが振るわなかった。

## ●乗用車新車販売台数

3カ月ぶり減少



10月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,235台で、前年同月比▲25.7%と、3カ月ぶりに減少した。消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減で、統計開始以来10月としては最低となった。

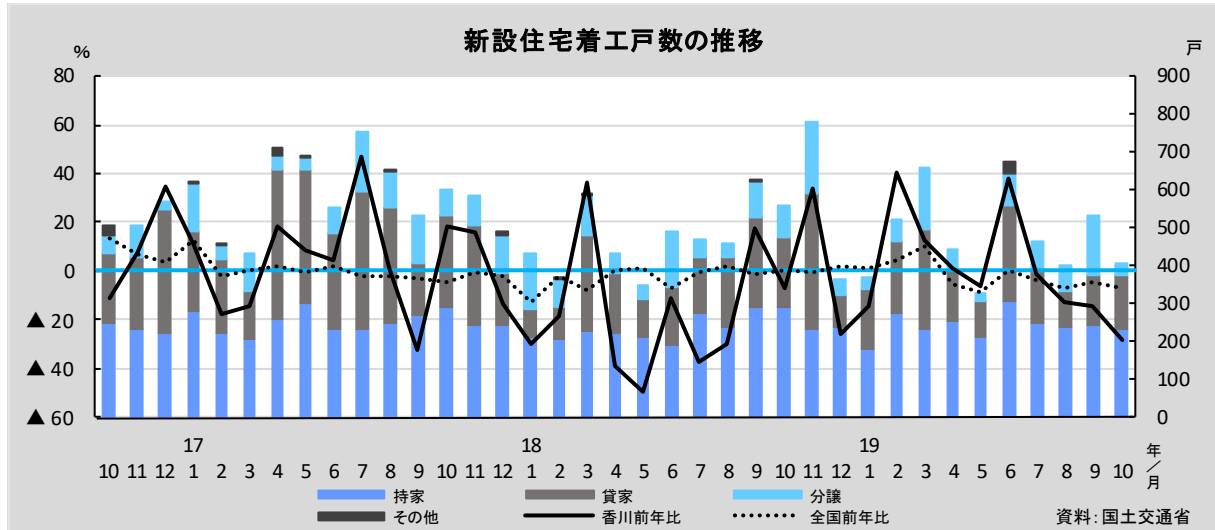
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲33.1%、小型乗用車で同▲25.7%、軽乗用車で同▲21.1%となった。

## 住宅投資

減少傾向となっている

### ●新設住宅着工

4カ月連続減少



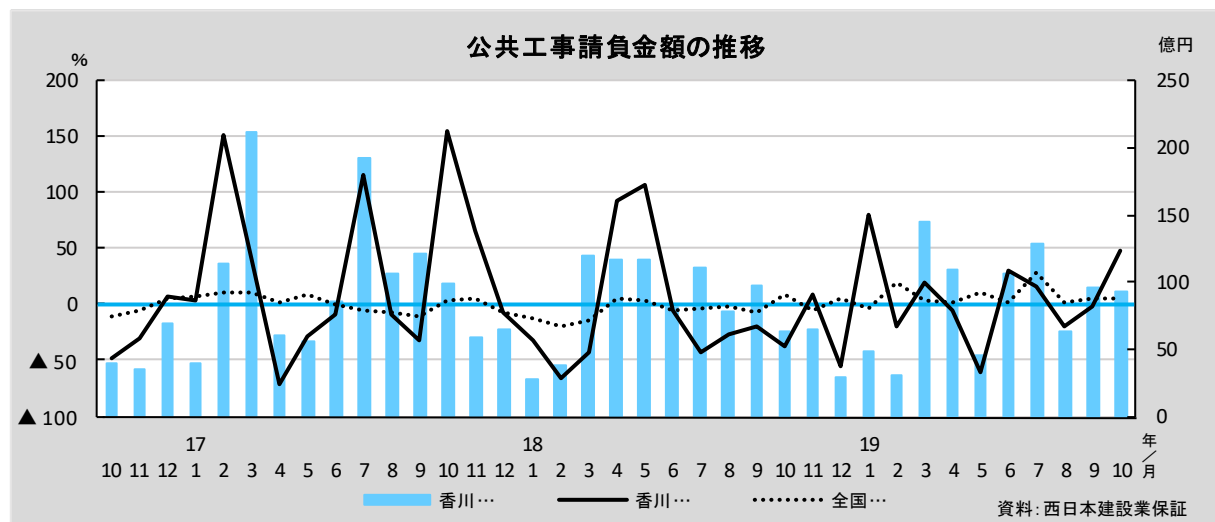
10月の新設住宅着工戸数は403戸で、前年同月比▲28.2%と、4カ月連続で減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲21.0%、**貸家**で同▲22.8%、**分譲住宅**で同▲64.0%となった。

## 公共投資

横ばい圏内で推移している

### ●公共工事請負金額

3カ月ぶり増加



10月の公共工事請負金額は93.2億円で、前年同月比+48.6%と、3カ月ぶりに増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+36.9%、**県**で同+34.2%、**市町**で同+90.5%となった。

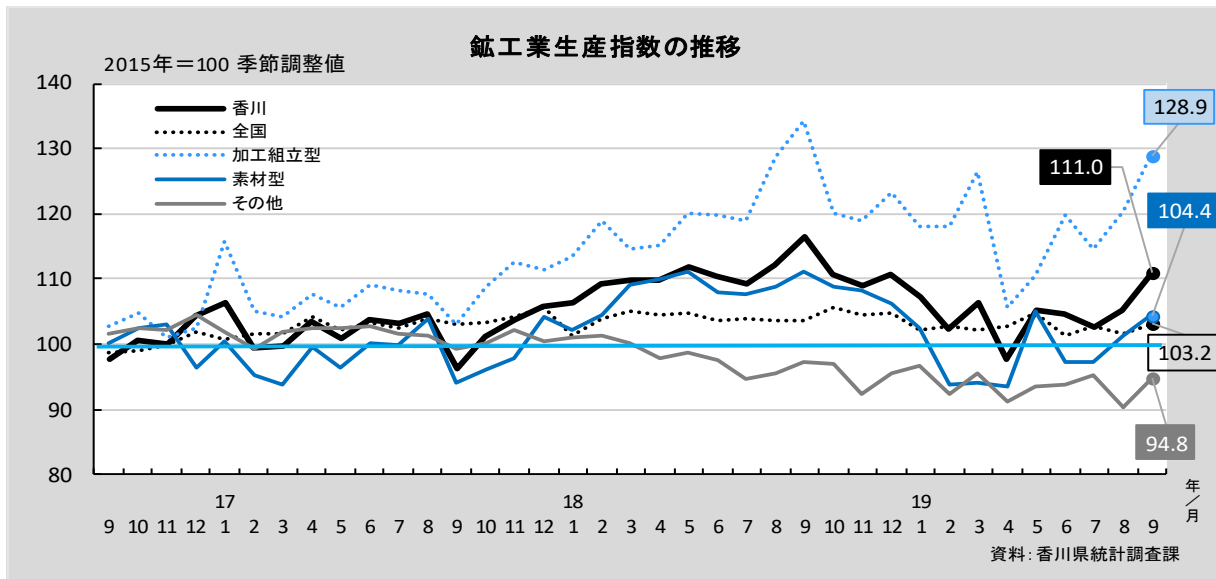
4～10月の年度累計では前年同期比8.0%減少している。

生産活動

横ばい圏内で推移している

● 鉱工業生産指数

2 カ月連続上昇 ↑



9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は111.0（前月105.3）となり、2カ月連続で上昇した。

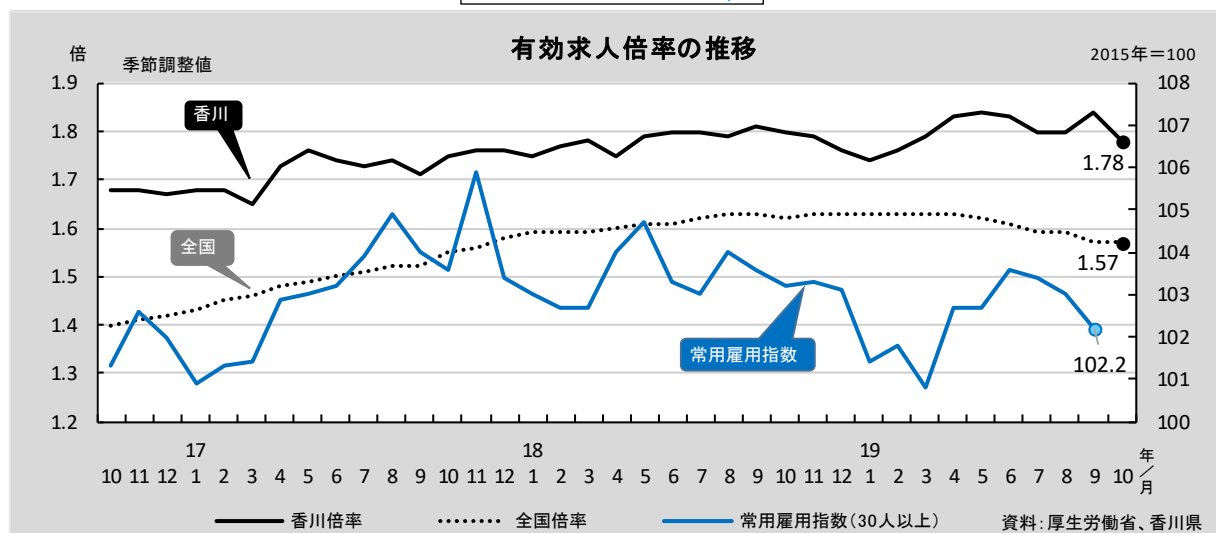
業種別では、加工組立型の輸送機械工業（鋼船）が前月比+20.7%、素材型の非鉄金属工業（電気金）が同+20.9%となり上昇に寄与した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（塩）や加工組立型の電気機械工業（発光ダイオード）などが前月より低下した。

雇用情勢

好調に推移している

● 有効求人倍率

3 カ月ぶり減少 ↓



10月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.78倍（全国9位）と前月より0.06ポイント減少した。

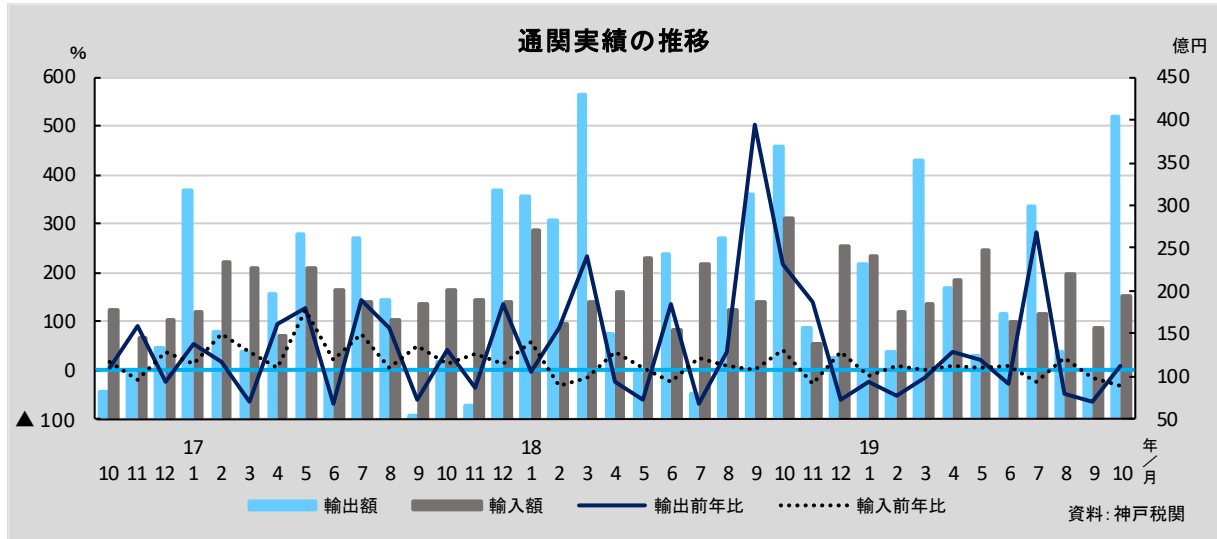
新規求人（原数値：前年同月比）は、製造業、医療・福祉等で増加し、卸売業・小売業、サービス業等で減少となり、全体で前年比7.6%減と2カ月ぶりに減少。

9月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.2となり、2カ月連続で減少した。

| 職業別常用有効求人倍率  | 倍    |
|--------------|------|
| 専門・技術的職業     | 2.18 |
| 事務的職業        | 0.55 |
| 販売の職業        | 2.32 |
| サービスの職業      | 3.85 |
| 生産工程の職業      | 2.49 |
| 輸送・機械運転の職業   | 3.02 |
| 建設・採掘の職業     | 5.06 |
| 運搬・清掃・包装等の職業 | 1.11 |

## 貿易

輸出入とも横ばい圏内の動きとなっている



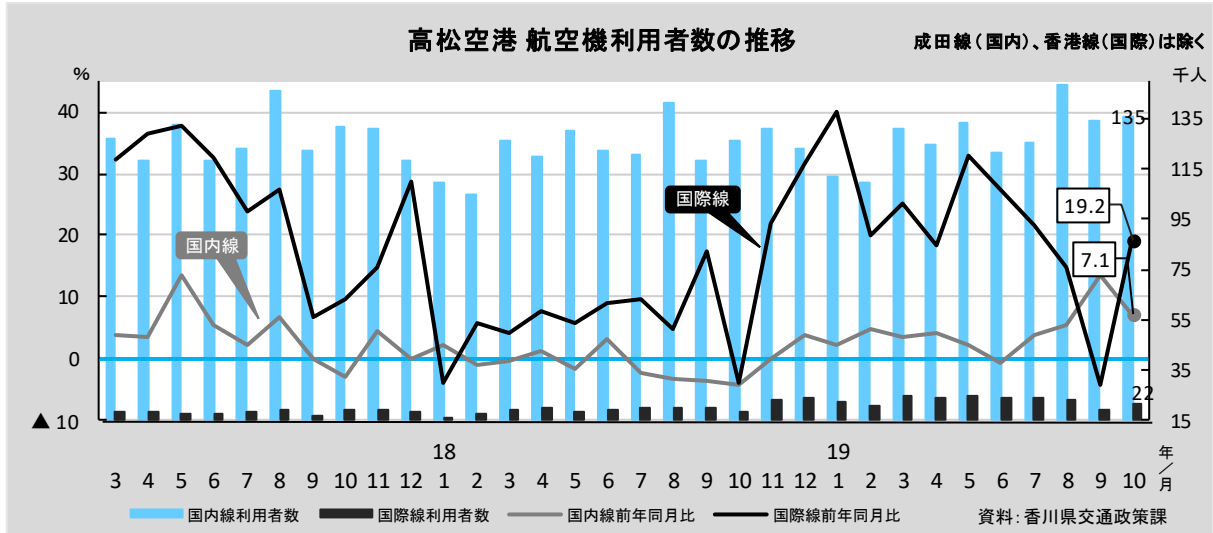
10月の通関輸出額は前年同月比+9.7%の403.7億円、輸入額は同▲32.2%の192.9億円となっており、差し引き210.8億円の出超となっている。

輸出額増の主因は、貨物船輸出額が前年同月比+432.7%の339億円となったためである。輸入額減の主因は、液化石油ガス輸入額が同▲87.2%の5億円となったためである。

## 交通

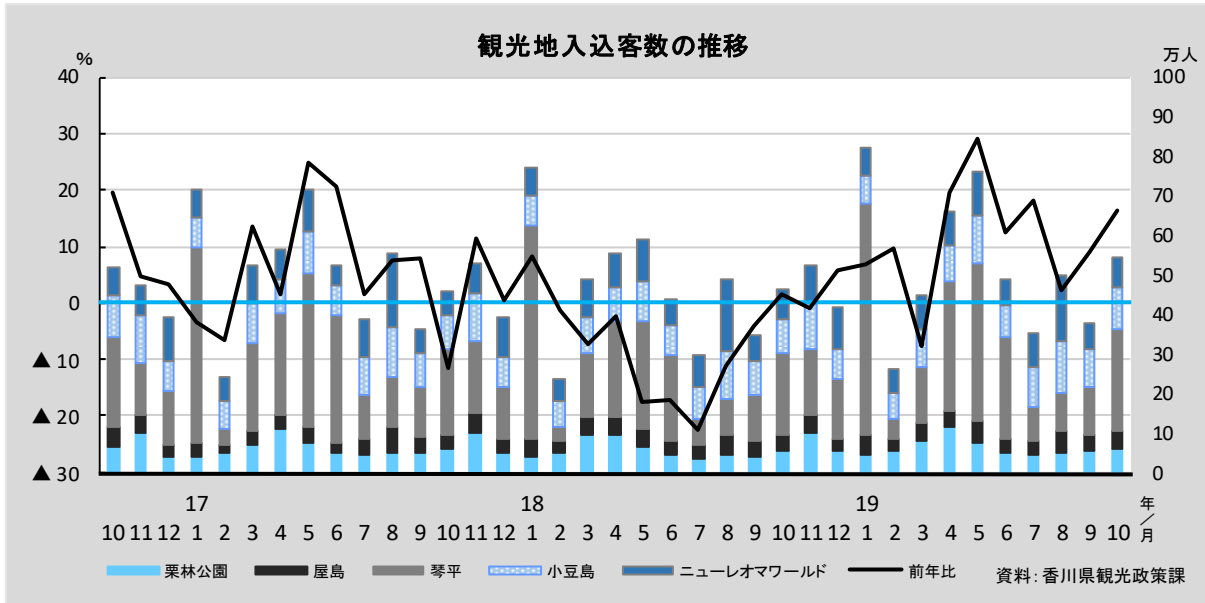
好調に推移している

### ●高松空港旅客輸送実績



10月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇便)が135,454人(前年同月比+7.1%)となり、4カ月連続で増加した。国際線(ソウル・上海・台北便)は21,685人(同+19.2%)となり、2カ月ぶりに増加した。

●主要観光地入込客数

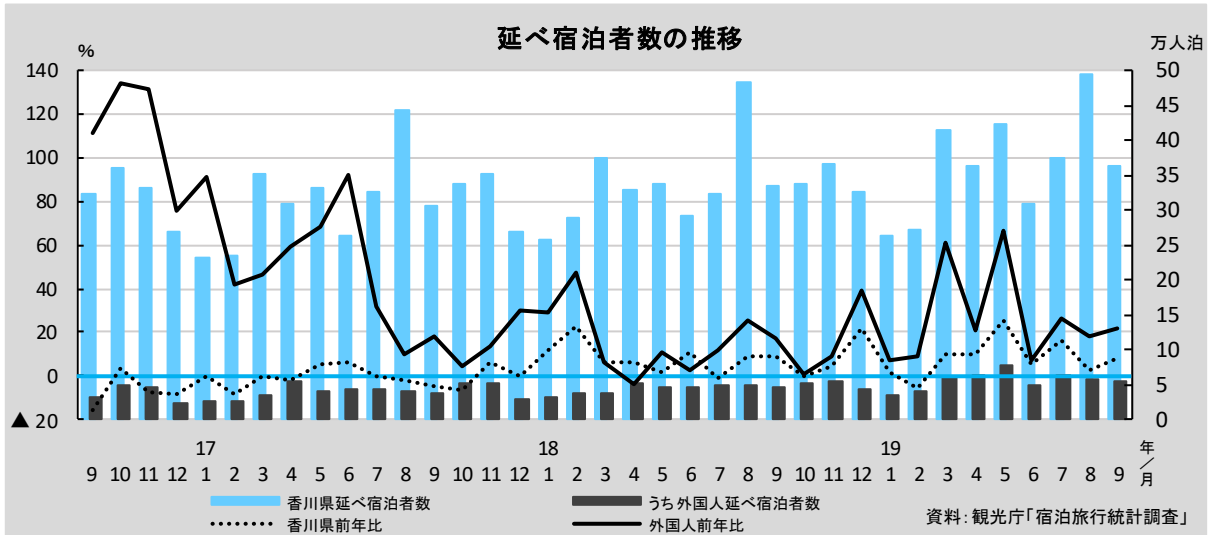


| 観光地入込人数    | 栗林公園    | 屋島      | 琴平        | 小豆島     | ニューレオマワールド | 合計        |
|------------|---------|---------|-----------|---------|------------|-----------|
| 10月(人)     | 59,775  | 46,791  | 256,000   | 105,863 | 73,459     | 541,888   |
| 前年同月比      | 10.7%   | 8.6%    | 24.9%     | 23.4%   | 4.9%       | 16.5%     |
| 1~10月累計(人) | 629,907 | 434,672 | 2,314,000 | 956,814 | 878,525    | 5,213,918 |
| 前年同月比      | 11.0%   | 6.9%    | 18.8%     | 9.8%    | 0.1%       | 11.6%     |

10月の主要観光地(ニューレオマワールド含む)の入込客数は、前年同月比16.5%増と7カ月連続で増加。瀬戸内国際芸術祭の秋会期効果で、小豆島は前年同月比+23.4%となった。栗林公園・琴平は4月から7カ月連続増と好調。

1~10月の累計では前年比11.6%増加と高水準を維持している。

●延べ宿泊者数



9月の延べ宿泊者数は、362,860人で、前年同月比+8.4%と7カ月連続で増加した。うち、外国人延べ宿泊者数は、55,570人となり、同+21.6%と17カ月連続で増加した。